

# 東郷青児と二科ゆかりの作家展



東郷青児《蝶》1970年 130.5×89.6cm SOMPO美術館(担保ジャパンより寄託)  
©Sompo Museum of Art, 22008

2022年8月2日(火)ー10月2日(日)

主催 カメイ美術館 SOMPO美術館 河北新報社  
特別協賛 カメイ株式会社 損害保険ジャパン株式会社  
協力 公益社団法人 二科会  
後援 宮城県 仙台市 宮城県教育委員会 仙台市教育委員会 朝日新聞仙台総局 毎日新聞仙台支局 読売新聞東北総局  
産経新聞東北総局 NHK仙台放送局 tbc東北放送 仙台放送 ミヤギテレビ khb東日本放送 エフエム仙台

開館時間 | 午前11時～午後4時(入館は午後3時30分まで) \*当面の間、開館時間を変更しております。

休館日 | 月曜日(祝日の場合は開館) 入館料 | 500円 / 65歳以上・中学生以下は無料

〒980-0022 仙台市青葉区五橋1-1-23 カメイ五橋ビル7階 TEL 022-264-6543 <http://www.kameimuseum.or.jp/>

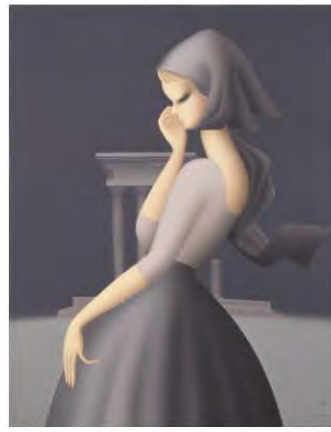
カメイ美術館



1.



2.



3.



4.

東郷青児が描く女性像は「青児美人」とうたわれ、今もなお根強い人気を博しています。本展では、SOMPO美術館収蔵の最初期の代表作《パラソルさせる女》から晩年までの優美でモダンな女性像とともに、カメイ美術館収蔵コレクションより、東郷が主な作品発表の場とし、会の発展に尽力した二科会にゆかりのある作家の作品を展示いたします。



5.



## 東郷青児 (とうごう せいじ)

1897年(明治30) - 1978年(昭和53)

鹿児島県に生まれ、東京を拠点に二科会で活動した洋画家。19歳で描いた《パラソルさせる女》は、初出品にして二科賞を受賞し、日本美術界で最初期の前衛絵画とみなされています。24歳から7年にわたるフランス滞在では、ピカソから独自のスタイルを貫く姿勢を学び、西洋絵画の伝統技法を研究するほか、仕事を通じて装飾やデザインも習得しました。帰国後はモダンな女性の新しい理想像を生み出し、壁画や挿絵などに多彩な仕事を残しています。



6.



7.

### 【東郷青児】 ©Sompo Museum of Art, 22008

1. 《パラソルさせる女》1916年 66.1×81.2cm  
SOMPO美術館(一般財団法人 陽山美術館より寄託)
2. 《婦人像》1936年 73.3×53.5cm  
SOMPO美術館(損保ジャパンより寄託)
3. 《望郷》1959年 116.1×90.7cm  
SOMPO美術館
4. 《花炎》1965年 116.3×80.4cm  
SOMPO美術館(損保ジャパンより寄託)
5. 《日蝕》1977年 145.5×97.0cm  
SOMPO美術館

### 【カメイコレクション】

6. 梅原龍三郎《薔薇》1972年 45.5×37.9cm
7. 安井曾太郎《京都郊外(柿)》1925-26年 45.5×53.0cm
8. 小出檐重《佛蘭西人形図》1930年 45.5×37.9cm
9. 菅野廉《蔵王(ロバの耳)》1985年 50.0×60.6cm



8.



9.

